

令和6年度 第1回鯖江市行政評価委員会 会議録（要旨）

日時：令和6年12月2日（月）

19：00～20：50

会場：市役所4階第1委員会室

出席者：井上委員長、八木副委員長、岩堀委員、上坂委員、吉村委員

鯖江市：長寿福祉課 掃部課長、上野参事、軽部主事

保育・幼児教育課 長崎課長、山本参事、岡島主事

事務局：行政管理課 峰田課長、小谷課長補佐、橋本主査

1 開会（19：00～19：15）

- 1 委員紹介…事務局により紹介
- 2 正副委員長選出…事務局一任により、委員長に井上委員、副委員長に八木委員を選出
- 3 外部評価実施手順…事務局説明
- 4 外部評価対象事業抽出…事務局説明、委員了承

2 外部評価実施

① 高齢者福祉バス運行事業（所管：長寿福祉課）（19：15～19：55）

<概要説明>（掃部課長）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員長：令和6年度の高齢者福祉バス（学びバス）の実績を見ると、毎回15人～20人弱参加しているが、申込みがないコースもある。このあたりは実績を見て、人気があるところを増やして、人気がないものは廃止していくのか。

所管課：はい。実績から、毎年コースの見直しをしているが、それでも老人クラブさんやサロンさんの日程とコースの要望が合わず、なかなかすべてのコースは埋まらない。

委員長：利用者からの要望は取っているか。

所管課：アンケートを取って、次年度に活かしている。

委員：決算見込みに関して、予算にバス代が含まれていないが何のバスを使用しているか。

所管課：市が保有しているバスを使用している。市職員の人件費やバスの燃料費は別に執行している。

委員：学びバス説明者への謝礼が安いのはどうしてか。

所管課：毎回ガイドがついているわけではなく必要な時だけボランティアガイドをつけてい

る。

委員：謝礼のほとんどは団体が支払っている。職員の人件費やバス代、ガソリン代などを含めると、この決算額以上に支出しているはず。ここの決算額だけでは運行できていないと思う。

委員：20人枠で10人程度しか埋まっていないコースもあるが、ほかの団体と一緒に回することは考えていないか。募集の際に、20名定員なので、10人以下で利用申請した場合は他の団体と一緒にすることがある、と記載しておくといいのでは。

所管課：一緒に回することはしていなかったが、検討していく。

委員：今年度は抽選はあったか。

所管課：5団体が落選している。1団体は2次募集で空いているコースを取ったが、それ以外は断念した。

委員：人気がある、というのは参加人数のことか、団体の申込み数のことか。

所管課：人数は、老人クラブなど団体の人数。なので、団体の申込みが多い場合に人気があったと言っている。

委員：リピートもあるのか。

所管課：抽選ではこれまで当選したところを次回しにしている。

委員：アンケートでは、行動範囲の拡充や生きがいがづくり、健康増進の援助の目的は達成しているという結果になっているか？

所管課：アンケートでは目的達成についての項目はなく、コースの評価をしてもらっている。ただし、行動範囲の拡充というのは、バスに乗って遠いところに行くことなので、バスに乗って遠出できることで達成できていると考えている。健康増進についても目的地で歩くなど軽運動があり、目的は達成できていると思う。

委員：対象団体の数は。

所管課：令和6年度については、老人クラブは54、サロンは102。ただし、団体数は年々減少している。

委員長：マッチングをするには、団体から要望を出してもらったほうがいいと思う。コースは市で提示して、日程を相手から出してもらおうのはいかがか。

所管課：相手から年度初めに提出してもらったりしないといけないなど、お膳立てが難しい。

委員長：日程の提案はできないのか。

所管課：お寺などの相手方の日程で調整しているため、難しい。

委員長：バスが老朽化した場合には事業の廃止をするのか。他に代替策があれば廃止すればいいと思うが、効果があるのであれば、廃止するのは利用者にとっては寂しいと感じるのでは。

所管課：民間で実施すると高額になるので、その場合には継続は難しいと思っている。

委員長：バスを借りるのではなく、インフラを使用して続行することはどうか。

所管課：高齢者が交通機関を乗り継いでいくのは難しいと思う。1回乗ったら到着するようなものならいいが。交通機関も鯖江は不十分。

委員：代替案はいまのところ検討していないのか。

所管課：バスもすぐ廃止するわけではないのでまだ代替案はないが、今後検討は必要だと思っている。

委員：バスを購入するより、それ以外の代替案を考えていかないのか。

所管課：バスの維持も市にとって必要かどうかを考えると難しいと思うので、可能性は低い。老人クラブやサロンも年々減少している。理由は高齢化で会員が減って維持できなくなり、新規加入者がいないため。町内でどう維持するか考えているが、クラブがなくなれば、事業もなくなる。

委員：この事業は団体のみか。個別にはしないのか。団体が減っているのに事業を廃止したら目的に沿わないのでは。増やす手立てはしないのか。

所管課：個別はしない。今の若い老人はコミュニティに入っていない。元の職場のコミュニティに属しているようで、いまの現状は団体が消滅に向かっている。

委員：そういったコミュニティがない人には市が関与する価値はある。高齢者福祉が向上しない方向になっており、成り行きで減るのはもったいない。老人クラブ以外にもほかの手段も模索していいのでは。

所管課：検討する。

<方向性判断>

委員長：今出た意見をまとめて委員会の令和7年度方向性を決めたい。意見をまとめると、複数のグループが申し込まれる場合の対応は短期間で可能ではないか。

老人クラブの減少、それに付随してバスの運行も減っていく。現実問題、そういった方々が減ってきている一方で、高齢者が増えている。外出の必要性はある。そういったニーズを満たす制度を、今すぐでないにしても、長期的な目線で検討していく必要がある。バスの運行事業もその一つ。

バスの老朽化までは、猶予でもあるので、代替案を検討していく必要がある。

以上のことから、大幅な改善ではないので、市の内部評価結果と同様、「維持」でよいか。(委員一致)

② 保育士さんウェルカム事業（所管：保育・幼児教育課）（20：00～20：45）

<概要説明>（長崎課長）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：趣旨は鯖江市の保育士として就職したことにプレゼントを渡してモチベーションを上げることか、あるいは、就職希望者に鯖江市に来てもらう目的か。

所管課：両方。

委員：就職前から事業のアピールをしているか。

所管課：仁愛大学、仁愛女子短期大学、養成校にPRをしている。また、ハローワークで介護、保育職向けの就職説明会でPRをしている。

委員：離職防止の目的もあるのか。2021年から1人2人離職者がいるが。この事業を始めてから離職数は減っているのか。

所管課：離職率を見て傾向を見ているが、退職者に理由を聞くと様々な理由がある。この事業は潜在保育士も対象なので、年配の人も対象となり、体力的に退職している人もいる。栄養士さんも対象だが、他の公務員試験に受かったなど。この事業のおかげで離職率が減ったと言えればいいが。鯖江市に来ると手厚い待遇があると思ってもらえるといいなと思っている。就職5年未満、10年未満の職員の離職率を取っているが令和元年度は5年未満は12名が離職した。

委員：贈呈額をみると70万なので、ものをあげて嫌がる人はいない。ものをあげることが保育士の確保につながっているのかを客観的に評価しにくい。あえてものをあげているということの評価するのが難しい。モチベーションを上げる手法はほかにもあると思う。たとえば、広報で頑張っている保育士さんを取り上げるなど。

所管課：園長先生からはうれしいとの声をきいている。広報さばえでがんばっている保育士を取り上げるのはいいと思う。Instagramを立ち上げて、保育協議会等のイベントを発信している。Instagramで頑張っている保育士を発信して、魅力の発信することについても検討していく。

委員長：何人いれば足りるという人数はあるのか。

所管課：何歳児なら、何人につき1人というような配置基準はある。ただし、障がい児や低年齢のお子さんの受け入れも入ってきて、きちんとした数がかめない。

委員長：新規に就職してきてもまだ足りないのか。

所管課：保育士の中には育休に入ったり、育休明けの時短勤務など、保育士さん不足は継続している。

委員長：出生数から必要な保育士さんを逆算して、それを埋めるために何が必要かと考えるといいと思う。保育士になるプロセスとして、職業に対して認識を持つ、大学に行くときに将来を考える、という段階があるが、どういうポイントで人を確保するのがいいのか、どういうポイントでやめる人をサポートできるのか、プロセスごとにサポートする策を検討する必要がある。システムとして考えていくと全体で大きな効果があると思う。

所管課：たとえば、小学校の事業で子供を抱っこする事業があったり、鯖江高校の学生さんと授業の一環で、せきいんこども園に生活発表会の衣装を作ってもらったり、一緒に芋ほりなど、体験してもらっている。ほかにも、貸付事業、ウェルカム事業、給与改善事業、ありがとう事業を展開している。10年未満の保育士の離職率が高いため、ありがとう事業を展開していたり。園とのミスマッチをなくすために、チャレンジ事業もやっている。さまざまな事業を組み合わせて、保育士の定着を図って

いきたい。

委員長：どこかで穴があると、効果が下がってしまう。検討してもらおうといい。

委員：保育士を目指している方が減っている。大学に行って鯖江市にぜひ、と言っても他の市と取り合っているだけでは。

所管課：県内では確保が難しい。他市の自治体もさまざまな策を実施しているが、保育士の確保が難しいと聞いている。

委員：人材確保は民間も一緒に、就職祝い金と似ている。インセンティブを与えることで、選択されやすくする。鯖江市の園に入ってもらった保育士さんがなぜここを選んだのか、なぜ継続しているか、アンケートは取っているか。

所管課：令和3年と5年度にアンケートを取ったが、どうしてその園を選んだかという質問は取っていない。

委員：なぜ鯖江を選択したか、なぜ5年継続しているか、なぜ育休後に戻ってきてもらったのか、理由を聞くとよい。鯖江市に住んでいるからとか、近隣に住んでいるからとか。そこが大事。

委員：市外からの就職者で、この事業を利用している者の数は。

所管課：データとしては持っていない。越前市や福井市からもいるが、半分もない。

委員：なぜこの人たちが鯖江市を選んだのか確認するのがいい。自分がこの園の出身だったとか、体験した時にいいと思ったからとか。

<方向性判断>

委員長：今出た意見をまとめて委員会の令和7年度方向性を決めたい。意見をまとめると、地場産品、経済的なインセンティブ、それ以外のインセンティブもある。保育士さんへの感謝の気持ちを伝える場としてSNSを活用するなど、より効果的な策があるのではないか。

鯖江市の人口ビジョンを踏まえて今後必要な保育士の数を出して、そのための確保に努める。保育士になるための意思決定の場面や、退職の場面、復職して働いてもらう場面など、プロセスに応じた手段を検討する必要がある。

鯖江市を選択している保育士や、継続して働いている保育士に意見を聞いて、政策に取り入れることが必要である。

以上のことから、令和7年度の方向性について、大幅な改善ではないので市の内部評価結果と同様、「維持」でよいか。（委員一致）

3 閉会（20：45～20：50）

委員長：次回開催は、12月9日（月）19時から市役所4階第1委員会室